

平成 4 年の「季刊 武蔵野」は障害者総合センターの設立について「全国初の多機能施設として各方面から注目を集めています」と報じています。初代の理事長は、「地域福祉の進展のために、中核施設となるよう機能させたい」、「“新しい福祉コミュニティ”の輪が広がればと思っています。その拠点としても活用されるように努めたいと願っています」とインタビューに答えています。

さて、その障害者総合センターですが、開始当初は内部の連携はスムーズではなく、また外部の方に対しても対応が柔軟でなかったこともあり、地域の方からは「暗い、閉鎖的」と言われたこともありました。確かに現場は利用者への対応で精いっぱいだったかと思います。しかしそういう中でも関心を持ち続けていただき、また私どもも積極的に広がろうとし、年々関係が広がり、相互の信頼が生まれていることを感じます。

例年 2 月の土曜日に開かれている「大野田福祉の会 交流広場」は 15 回を数えるようになりました。大野田福祉の会とは「地域社協」（正式には地域福祉活動推進協議会）のひとつで、市内 13 地域に分かれている住民の自主的な活動体です。私を含めて法人職員はその仲間に入れていただいておりますが、「交流広場」は大野田福祉の会の障害部会が中心となって企画され、毎年総合センターの食堂で開かれます。今年も大勢の障害当事者やご家族、ボランティアの参加があり、和気あいあいとした雰囲気、楽しみながらお互いを知るといった目的が少しずつ達成されているのを感じました。

他の施設でも私どもはその地域の「福祉の会」の方々とは関係が深くなり、またいろいろとお世話になっています。そのありかたや活動は様々ですが、活動を担っておられる地域の方々は大らかで、眼差しが柔らかく、私はいつも温かい気持ちになります。「福祉コミュニティ」とはこういうことなのではと思います。これがさらに広がることを願っています。

(平成 28 年 5 月)